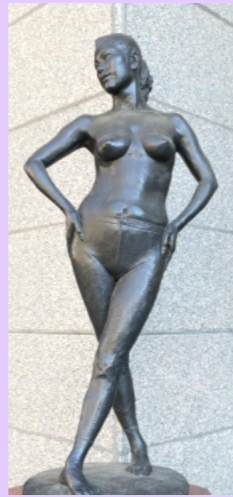


特集 社会教育活動

杉並区ゆかりの作家と作品に光を

予算特別委員会 3月9日 (質疑要約)

質問者 くすやま美紀区議



区役所前 佐藤忠良作



新宿区落合地域のマップ

○生涯学習推進課長 本庁舎内、セシオン杉並でも自由に鑑賞できる作品があります。ホームページですが文化交流会において庁舎美術めぐり画像がアップされています。

提案③ 案内マップの整備を

○くすやま委員 第3の提案として、杉並区ゆかりの芸術家の生家、アトリエ等の所在地に案内プレートを整備するとともに、そうした箇所を記したマップを作成できないでしょうか。
○生涯学習推進課長 プライバシーの問題を含めまして、自宅前に掲示板、案内板を設置することは、難しいと考えます。

多くの区が振興条例、プランを

○くすやま委員 この質問の最後に、今回調べてみて、他の区では、文化芸術振興計画をもって系統的に事業展開をする、またその土台となる文化振興条例をもっている区が複数あることを知りました。把握していますか。
○生涯学習推進課長 13区において条例を制定しているとは承知しています。
○くすやま委員 文化芸術振興プランも条例をもっていないのは、杉並区だけではないですか。

○生涯学習推進課長 当区だけではないと承知しています。

○くすやま委員 杉並区でも、文化芸術振興計画の策定、及び振興条例制定を持って取り組むべきと求めますが、いかがですか。
○生涯学習推進課長 教育委員会の生涯学習文化振興につきましては、教育ビジョンに包含されているものと考えています。新たな条例ですとか、計画を制定して屋上屋を重ねることは、現在考えございません。
○くすやま委員 杉並は文化都市のイメージを多くの区民は持つっており、検討していただきたい。

文化芸術振興計画、振興条例の有無

区	振興計画	条例
千代田	文化芸術プラン	有り
中央	文化振興プラン	
港	文化芸術振興プラン	
新宿		有り
文京	アカデミー推進計画	
台東	文化発信プログラム	
墨田	文化芸術に関する基本方針	有り
江東	文化プログラム基本指針	
品川	文化芸術スポーツ振興ビジョン	有り
目黒	芸術文化振興プラン	有り
大田	文化振興プラン	
世田谷	文化芸術振興計画	有り
渋谷		有り
中野	人とまち文化を結ぶ中野づくり	
杉並		
豊島	文化政策推進プラン	有り
北	文化芸術振興ビジョン	
荒川	芸術文化振興プラン	
板橋	文化芸術振興ビジョン	有り
練馬	学びと文化の推進プラン	有り
足立	文化芸術振興計画	有り
葛飾		有り
江戸川		有り

○くすやま委員 社会教育活動に関して、主に、杉並区がほこる文化的資源ともいえる杉並区ゆかりの作家と作品の扱いに関して伺います。

杉並区は、23区のなかでも、杉並区ゆかりの小説家、彫刻、版画、絵画など美術分野の作家が多数います。私の認識の範囲ですが、例えば小説家では井伏鱒二、太宰治、有吉佐和子、歌人では与謝野晶子など。画家では奥村土牛、中川一政、彫刻では佐藤忠良、版画家では棟方志功などです。現在活躍している芸術家でも、杉並区出身で創作活動を続けている方は、日本画家千住博氏など、多数おられます。

区として把握している主な杉並区ゆかりの作家、画家等について、まずご紹介ください。
○生涯学習推進課長 ご指摘になった方々はもちろんです。例えば林芙美子、向田邦子、男性の方ですと神林暁、外村繁、青柳瑞穂。美術家ですと、橋本明治、津田青楓、そういう方々が他にもいらっしやいます。

杉並の魅力 観覧の機会拡大を

○くすやま委員 日本を代表し、文学史や美術史に記録されているような作家・芸術家に関する記録とその作品は、区にとって貴重な文化資源ともいえると思いますが、区はどのように考えていますか。また、区民のための社会教育活動においても、さらに杉並区の魅力を広げる、集客力を高めるうえでも、ゆかりの作家とその作品を広く知らせ、観覧の機会を広げて行くことは重要課題と思えますが、どう認識していますか。

○生涯学習推進課長 杉並ゆかりの作家、芸術家の作品に触れる機会を提供することは、郷土杉並への理解や愛着を高める上で大変重要なことであると認識しており、そういう視点をもって郷土博物館等で展示など行っているところです。

○くすやま委員 区立の展示施設としては、郷土博物館の本館と分館があります。杉並区立郷土博物館条例では、事業として、考古、歴史、民俗の实物等の収集、保管とあり、事業実績では展示の欄に「杉並文学館」が記載されています。また来年度は棟方志功展が予定されていますが、杉並区ゆかりの作家の資料、作品の紹介など、どう取り組んでいるでしょうか。

○生涯学習推進課長 郷土博物館では、これまで、井伏鱒二、石井桃子、有吉佐和子、森村桂、日本



くすやま美紀区議

画家の石山泰伯など杉並ゆかりの作家や芸術家に関する展示を行ってまいりました。杉並文学館ですけれども、こちらは阿佐ヶ谷周辺の作家の集まりである阿佐ヶ谷会のメンバーを中心に杉並ゆかりの文学者を展示する紹介ということで準常設展という形で展示を実施しています。

努力はあっても低い観覧者数

〇くすやま委員 問題は、そうした企画展が、どれだけの区民、区外の方々に観覧されているのかということです。本館、分館及び合計来場者の最近3か年の推移をうかがいます。

〇生涯学習推進課長 3か年、平成29年度は本館が1万6054人、分館が1万7038人、合計で3万3092人です。平成30年度は本館が2万1552人、分館が1万3206人、合計で3万4758人。令和元年度は本館が1万6407人、分館が1万5546人、合計で3万1953人となっています。

〇くすやま委員 この実績をどうみるか判断しがたいですが、歴史資料館として努力されていることが反映されていると思います。しかし、他区の世田谷文学館の2018年度の入館者数は26万7千人です。こうした事例と比較すると少ない印象になります。いかがですか。

〇生涯学習推進課長 本館の観覧者数、これ2万

人ですけれども、純粹に来館された人数を把握してございます。2万人を超えたのは、平成元年に郷土博物館オープンしておりますが、平成5年以来25年ぶりにその2万人台を回復したところとです。この要因は、杉並に根差しつつ、区内外にアピールできるような魅力のある展示を企画して発信したということ、特別展企画展を実施したことに関係していると思います。

今、世田谷文学館の人数についてお話がありましたけれども、こちらの施設は地域に根差してというよりも、特に世田谷だけでなく、広く全国、文学者についてもテーマも広いです。まあ施設規模も違いますし、あと20万を超える人数というのを単なる入館、観覧者数、純粹の観覧者数ではなくて、例えばイベントのいわゆる参加者、そういうものも含めた人数を足し上げた結果がその数字になっているのではないかと、いうふうにご覧いただいております。

他区では文学館、美術館も

〇くすやま委員 杉並区郷土博物館の準常設展としての文学館の観覧数をみると、2018年度は36日間と25日間の2回行われて、観覧者は2510人です。

本橋課長も学芸員とうかがいましたが、学芸員の皆さんの努力があっても、郷土博物館の利

積4593㎡、来館者は2019年度25万2502人、新宿は、歴史博物館のほか漱石山房記念館、林芙美子記念館、佐伯祐三アトリエ記念館、中村彝アトリエ記念館あわせて6877㎡、来館者は10万6591人。杉並区は、努力されていますが、区ゆかりの作家、美術家は多数いながら、そうした作家の記録や作品の展示施設としては十分でないという印象が否めません。

提案① 分館の展示機能拡充を

〇くすやま委員 現在のコロナ禍の状況のもとで、施設の建設を提案するものではありませんが、現状をベースに、何らかの拡充ができないかと思っております。

その一つは、郷土博物館の分館です。荻窪駅から徒歩7分程度、公園の中に設置という好条件をいかし、文学、美術関係の展示機能を強化できないか。「分館」という名称を工夫する、公園内に彫刻を移設する。展示スペースも拡充するなど、検討できないのか提案しますが、いかがですか。

〇生涯学習推進課長 郷土博物館、本館も分館も歴史系の展示に限らず、文学、それから芸術自然史に至るまで幅広い展示を行っています。分館の施設は公園施設の一部として位置づけられてございますので、機能を拡充するためには公園利用との関係で、様々な制約があるものと考

えています。名称のことですが、19年度に開設しまして、区民参加型の展示を行う郷土博物館として定着してございますので、名称の変更は現在考えていません。

〇くすやま委員 様々な制約がありますが、何とか検討ができないかと思っております。

さて、今回の質問準備にあたり、23区の社会教育費の決算額を調べてみました。杉並区は低いことがわかりました。決算額の歳出総額に占める比率は、23区のなかで何位ですか。3か年の結果をお答えください。

〇生涯学習推進課長 平成29年度が22位、平成30年度が20位、令和元年度が18位です。

■2019年度決算における歳出総額に占める社会教育費の比率

順位	区	歳出総額費
1	千代田区	3.56%
2	目黒区	2.64%
3	中央区	2.57%
4	板場区	2.45%
5	文京区	2.43%
18	杉並区	1.67%

出典 都総務局「特別区決算状況」

〇くすやま委員 低い位置ですね。文化の杉並区らしく、必要な財政措置もとるべきだと思います。

便性や施設規模などの制約もあるのかと思わせるをえませんが。

近隣区の展示事業を行っている社会教育施設を調べたところ、郷土博物館的な施設はどの区にもありますが、同時に、文学館、美術館など複数展開をしている区があります。

目黒区、世田谷区、渋谷区、練馬区、新宿区、板橋区の施設の状況をお答えください。

〇生涯学習推進課長 目黒区は歴史資料館の他に美術館。世田谷区は郷土資料館の他に美術館と文学館。渋谷区は郷土博物館文学館、併設施設ですけれども、その他に美術館。練馬区はふるさと文化館の他に美術館。新宿区は歴史博物館、林芙美子、夏目漱石などの個人の記念館。板橋区は郷土資料館の他に美術館を持っています。

〇くすやま委員 私は、世田谷文学館、新宿歴史博物館に行きました。世田谷文学館は、延べ



新宿歴史博物館

世田谷文学館

提案② 区施設全体の観覧を

第2の提案として、区立施設、学校、公園等には、杉並区ゆかりの画家や彫刻家の作品が分散して展示されており、そうした展示の観覧を促す工夫が必要だと思っております。例えば、永福町駅構内には、佐藤忠良さんの作品（佐藤オリエさんをモデルにしたといわれています）が展示され、解説のプレートがあります。本庁舎も含め、区立施設内にある、主な作品をお答えください。

〇生涯学習推進課長 先ほどの比率のことですが、各区によって組織体制も異なっておりますので、社会教育費の構成の中に、例えば別の区ではスポーツの経費が入っているとか、そういったこともあります。一概にこの数字をもってその比較することはできないと考えます。

本庁舎には、佐藤忠良の彫刻という話がありましたが、吉井淳二、中川一政、佐野ぬいの絵画、雨宮敬子さんの彫刻などもあります。セシオン杉並にも、山口長男、伊藤清永、糸園和三郎などの絵画の他に、橋本健太郎の彫刻があります。

〇くすやま委員 そうした作品が可能なかぎり誰もが見られる工夫をするともに、区のホームページで、杉並美術散歩というようなネーミングで地図におとして紹介するなど、工夫すべきと思っております。いかがですか。